

「授業をつくる」とは

ハイライト：

- ・「授業をつくる」とは
～野口先生の発問から～
- ・多様な表現を柔軟に活用
できる自力解決場面を
- ・小林先生の授業では、考
えを解釈する姿を
- ・中・高学年部会での授業
づくり
- ・授業整理会は、次のよう
に進めます。

「授業をつくる」とは ～野口先生の発問から～

10月18日に野口先生から算数の「分数」の学習を公開していただきました。授業は、「図や式を使った説明」がキーワードでした。

公開授業では、数直線やリットル図を使って、自分の考えをわかりやすく説明しようとする子どもの姿を見取ることができました。また、よりよい学習集団としての学び方は、低・中学年の子どもたちのめざす姿となります。

今回の公開授業では、集団解決の場を、知的なコミュニケーションによって数学的価値を追究する思考・表現の場としていくことをめざしていました。授業では、このような場が野口先生の1つの発問によってつくりだされました。

それは、「どうして単位分数のいくつ分と考えなければいけないのか。」という発問です。子どもたちは、前時までの学習を生かし、単位分数（ $1/12$ ）の

考えを使って、数直線やリットル図を表現し、説明していくことができました。そして、全体で2人の考えが出された後、改めてこのような発問が出されたのです。

当然だと思っていることを改めて問われると、答えに詰まってしまうことがあります。それでも、子どもたちなりに、単位分数のいくつ分で考える理由を説明していく場をつくっていくことが、自他の考えを「解釈」する場をつくることになり、通分の意味理解を深めていくことにつながりました。

このような発問を有効に機能させるためには、そこに至るまでの問題の提示、めあての設定、自力解決の場を、その発問を意識して構成していく必要があります。

評価規準を明確にして、「授業をつくる」とは、このような過程を大切にしていくことではないでしょうか。

多様な表現を柔軟に活用できる自力解決場面を

自力解決場面においては、子どもたちの発想や着眼点を十分に活かし、反映できる数学的な表現活動を取り入れていきたいと思います。

子どもたちは算数の問題解決の中で、すぐに式に書いて解を求めようとします。しかし、式に書いて解決することが妥当かどうか、子どもたち自らが多様な表現を比較・検討することは、まずありません。だからこそ、子どもたちが自分の考えを図や言葉で表現していく場を設定していくことが大切なのです。

例えば、6年生の「文字の式」の学習では、写真プリント1枚30円の時のプリントの枚数と代金の関係を調べる場合、表で調べたり、ことばの式、文字の式、数の式で表したり、多様な表現から比較・検討することができます。

新しい学習指導要領では、「言葉、数、式、図などに表す活動」が位置づけられ、これまで以上に表現することがもてめられています。子どもの筋道だった思考を的確に表現できる自力解決場面をつくりだしていきましょう。

小林先生の授業では、考えを解釈する姿を

10月25日に1年2組で公開授業を行います。今回も、部研として行っていきます。授業は全職員で参観していきます。授業整理会は、低学年部会のみで行います。講師として久山町教育委員会指導主事 安部章先生にご指導いただくことになっています。

今回の小林先生の授業は、「数図ブロックを使った説明」がキーワードになります。

本時の授業は、加数や被加数を分解して(1位数)+(1位数)の繰り上がりあるたし算の方法を数図ブロックで説明していくものです。

子どもたちは、前時までの学習内容

や方法を活用して、さくらんぼ図や数図ブロックを用い、加数を分解したり、被加数を分解したりし、自力解決していきます。

自力解決の後、ペア交流から全体交流へと進んでいくのですが、全体交流の後半に、今回の授業の一番の見どころとなる発問があります。

それは、「動かすブロックが少ないのは、どちらの考えですか?」というものです。3+9という問題なので、被加数である3を動かす方が少ないのですが、その理由を改めてブロック操作をさせながら説明させていくことで、考えを解釈する場をつくっていきます。



集団解決の場で
知的コミュニケーションを
生み出しましょう。

中・高学年部会での授業づくり

10月25日の授業整理会時、中・高学年部会は、それぞれの部会で授業づくりを行っていきます。

【中学年部】

- 案浦先生の指導案審議 (11 15)
- 植田先生参観授業審議 (11?)

【高学年部】

- 豊原先生の指導案審議 (11 21)
- 安部先生参観授業審議 (11?)

授業参観指導を11月8日より実施します。2学期の授業参観指導対象者は、1学期に公開授業を行っていただいた先生方になります。国語の授業が中心

となりますので、説明文を読むことに視点をあてた授業を行ってください。

前回も述べましたが、授業づくりにあたっては、まず、評価規準を明確にしていきましょう。この機会に、国立教育政策研究所の評価規準にかかわる資料をダウンロードし、それぞれの学年で目標としている姿を確認していきましょう。

評価規準を意識した授業では、今までの授業と同じような活動を仕組んでも、支援の在り方が変わってきます。より質の高い授業をつくっていきましょう。

授業整理会は、次のように進めます。

司会 (柴田) 記録 (半田)	於: 会議室
1 講師紹介 (井上)	15:10
2 協議	15:15~15:50
3 指導助言	15:50~16:25
安部指導主事	
4 謝辞・まとめ (井上)	16:25

※授業整理会参加者

低学年部 (西田・小林・柴田・半田・周藤・中村)
研究主任

※公開授業写真 (西田)、研究通信 (半田)